## 「当院における冠動脈病変に対する薬剤溶出バルーン治療の 急性期ならびに慢性期成績の検討」 のお知らせ

虚血性心疾患とは狭心症や心筋梗塞の事を指し、心臓を養う冠動脈が動脈硬化により狭窄を来たしたり、閉塞したりすることで発症する病気です。この虚血性心疾患に対しカテーテルを用いた治療が行われています。

ステントという金属を用いて病変部を拡張しますが、金属が入っているために その部分に動脈硬化を起こしやすいなどの長期的な有害事象が少数ながら報告 されてきています。

一方で薬剤を血管壁に塗布する薬剤溶出バルーンが用いられるようになり、 良好な臨床成績が報告されるようになりました。しかし多くは基準を満たした 患者さんや病変での成績であり、必ずしも日常診療の成績を反映しているもの ではありません。そこで、薬剤溶出バルーン治療の実臨床での治療成績をはっ きりさせるためにこの研究を計画しました。

## <研究対象>

2009 年 11 月 1 日から 2019 年 12 月 31 に当院心臓血管センターで薬剤溶 出バルーンを用いて冠動脈カテーテル治療を受けられた患者さん(約 1700 人)

## <研究内容>

年齢、性別、治療実施日、動脈硬化危険因子の有無と内服治療歴、術前術後投薬内容、術前検査結果、追跡調査、イベント発生の有無などの情報を診療録などから収集します。

研究で集めるデータには患者さんのお名前や住所など個人を特定する情報は含まれません。研究結果は学会や出版物として公表することがありますが、その場合でも個人を特定する情報が公表されることはありません。プライバシーは守られます。本研究は当院の倫理・臨床研究審査委員会で承認されています。本研究の趣旨をご理解頂き、研究への参加をお願いします。もし参加を望まれない場合は研究から除外しますので担当医師にお申し出ください。研究が始まった後でも自由に参加を取りやめることができますのでその際も担当医師にお伝えください。ご協力いただけない場合でも、今後の診療に不利益はきたしません。また、ご質問がある場合も担当医師にお伝えください。ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

2021年8月2日

京都桂病院 心臓血管センター内科 副部長 舩津 篤史